

12 平成 25 年度 沖縄県精神看護研究会

第 21 回沖縄県精神看護研究会

申請者氏名（代表者） 鈴木 啓子		所属部門	人間健康学部看護学科 精神看護学領域		
企画名 第 21 回沖縄県精神看護研究会： 精神科における薬物療法最前線！ークロザリル治療ー					
<p>企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）</p> <p>毎日の取り組みや工夫、行なってみたいことや夢、新しい情報や知見などについて、日ごろ看護を 実践されている皆さんと教育研究に携わっている皆さんと共有できる交流の場として、毎月開催して いる沖縄県精神看護研究会である。今回は、精神科における最新の薬物療法『クロザリル』をテーマ に、その最前線で、看護職として治療コーディネートに携わっている琉球病院看護師の伊波氏をお招 きし、上記のテーマについて詳細な情報提供して頂き、参加者とのディスカッションを行った。</p>					
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）					
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考	
鈴木啓子 伊礼優 平上久美子 鬼頭和子	人間健康学部 教授 准教授 講師 助手	精神看護学 精神看護学 精神看護学 精神看護学	研究会代表、司会進行 企画書作成 準備・会場設営・事務 etc. 広報	代表者	
企画実施報告（参加人数等を明記）					
<p>実施した日時：平成 25 年 6 月 22 日（土）13:00～15:00 *参加者：12名</p> <p>これまで複数の抗精神病薬を十分な量、十分な期間投与したにもかかわらず、十分な反応が得られ ない反応性不良又は錐体外路症状などの副作用によって抗精神病薬を十分な量まで増やせない耐容性 不良の治療抵抗性統合失調症の治療薬として、世界 97 ヶ国で承認され、その効果が注目されている“ク ロザリル”についてその効果や適応、実際の事例について、またそれを治療として導入する医療機関 になるために必要な条件、院内チームのことなど、最前線で看護職として治療コーディネートに携わ っている、琉球病院看護師の伊波さんをお招きし、情報提供していただいた。「ここ聞きたい!」「ほ んとはどうなの?」などなど、現実的な踏み込んだお話もきけて、多様な背景の参加者の方が、それ ぞれに学ぶことの多い研究会だった。</p> <p>伊波さんは 80 枚にも及ぶスライドを準備してくださり、なかなか聞くことのできない詳細を丁寧 に話してくれ、また同じ病棟のスタッフの方や師長さんも来てくださり、ディスカッションの幅も広が った。</p>					

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

参加者は、様々な背景(市役所相談員、ケアマネージャー、学部生、精神科病院看護師、大学院生、大学教員等)のある方々であり、今回、沖縄県でも最も早くからクロザリルの使用を開始した琉球病院のクロザリル治療コーディネーターの伊波氏に講義頂いた内容は、非常にわかりやすく、基礎知識のない者にも丁寧に説明がされていた点が好評であった。参加者にとっては、沖縄県でもまだ3つの精神科医療機関でのみ使用が認可されているクロザリル治療に関する詳細をそれぞれの立場や視点で学習する機会となっていた。実施後アンケートにも「参考、勉強になった」「満足した」などの意見が殆どであった。治療抵抗性のある患者にクロザリルを用いる際にも、医療従事者が信頼関係を丁寧に築くことの重要性を改めて知る機会となったこと、また、治療抵抗性によるケア困難感により“やっかいな”患者と思われる精神障害者の方々の回復への希望を専門職である我々にもつことを可能にすることが、専門職自身の視野の広がりにもつながる意味があることを理解することができた。この点が参加者にとっては各自の臨床におけるケアにつなげていくことができる意味があったと考え、非常に有意義な研究会となったと考える。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

本年度は年間計画があるので、それに沿ってなるべく広く広報して多くの方に参加していただけるようにしたい。

また次年度に向けて、どのようなテーマで開催するのがいいか、参加者の方のニーズや地域に必要なことは何かを検討しながら、時には対象を絞ったりしながら進めていきたい。

主催：名桜大学人間健康学部看護学科 精神看護学
共催：名桜大学看護実践教育研究センター

第21回沖縄県精神看護研究会のご案内

精神科における薬物療法最前線！
ークロザリル治療ー

琉球病院 看護師
講師：伊波陽二さん

日時：平成25年6月22日(土) 13:00～15:00

参加費：無料

場所：名桜大学北部地域看護系医療人材育成
支援施設(看護棟) 講義室4

お問合せ・お申込先

名桜大学人間健康学部看護学科 精神看護学 担当：平上

E-mail: k.hirakami@meio-u.ac.jp

TEL: (0980) 51-1281 (直)

FAX: (0980) 51-1307 (看護学科内代表)

★お申込み方法★ FAXかE-mailで。

お申込みの様式は自由です。お名前、ご連絡先、所属施設をお知らせ下さい。

第 22 回沖縄県精神看護研究会

申請者氏名（代表者） 鈴木 啓子		所属部門	人間健康学部看護学科 精神看護学領域	
企画名 第 22 回沖縄県精神看護研究会： 司法精神科病棟の現状と課題－病棟管理者の立場から－				
<p>企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）</p> <p>毎日の取り組みや工夫、行なってみたいことや夢、新しい情報や知見などについて、日ごろ看護を 実践されている皆さんと教育研究に携わっている皆さんと共有できる交流の場として、毎月開催して いる沖縄県精神看護研究会です。</p> <p>今回は、「司法精神科病棟の現状と課題－病棟管理者の立場から－」がテーマでした。司法精神科 病棟は未だ各都道府県には配置されておらず、沖縄県では唯一、琉球病院に設立されています。講師 には、琉球病院副看護部長の西谷博則先生をお招きして、管理職の立場から、司法精神科病棟の現状 と課題について、情報提供をして頂きました。</p>				
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）				
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
鈴木啓子	人間健康学部 教授	精神看護学	研究会代表 企画案検討作成	(当日は出張のため不在)
伊礼優	准教授	精神看護学	企画書作成、司会進行	
平上久美子	講師	精神看護学	準備・会場設営・事務 etc.	
鬼頭和子	助手	精神看護学	準備・会場設営・事務 etc.	
企画実施報告(参加人数等を明記)				
<p>実施した日時：平成 25 年 7 月 20 日（土）13:00～15:10</p> <p>平成 17 年に、「心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（医 療観察法）」が成立した。この法律は、心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者が、円滑に社会 復帰ができるように支援するものである。これまでの精神保健福祉法では、上記のような患者は、長 期入院を余儀なくされる問題が生じていた。医療観察法の成立により、司法精神科病棟では下記に示 した「入院から退院までのプログラム」が提供されている。</p> <p>①病状の改善と継続的かつ適切な医療の確保。②様々な問題を前向きに解決する意欲や社会で安定し て生活する能力を養う。③他害行為の問題を認識し、自ら防止できる能力を高める。④被害者に対す る共感性を養う。</p> <p>司法精神科病棟は、豊富な人材による多職種チームが配属され、対象者参加で高度の医療が提供さ れている。しかし、司法精神科病棟は、その特殊性から一般に広報される機会は多くない。</p> <p>今回、沖縄県に唯一存在する琉球病院の医療観察法病棟について、西谷博則副看護部長より、医療 と看護の実際についての概要が説明され、実際の事例や場面を取り上げて、看護者の役割や課題、医 療観察法病棟の看護の特徴などが提供された。その後、同病棟のスタッフや、他の病院の看護師、学 生を交えてのディスカッションを行った。</p> <p>*参加者：30 名</p>				
企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)				

参加者は、様々な背景（精神科病院看護師、市役所相談員、大学院生、学部生、大学教員等）の方々であった。西谷博則副看護部長より医療観察法病棟について講義して頂いた内容は、非常に貴重であり、踏み込んだディスカッションができたこと好評であった。

参加者にとっては、沖縄県にカ所のみ存在する医療観察法病棟について、それぞれの立場や視点で理解を深める機会となっていた。医療観察法病棟に入院する患者は、重大な他害行為を行った患者であるため、そこでの看護は困難であると思われた。しかし、精神科医療の中でも十分なマンパワーを備え、多職種によるチーム医療が展開されている医療観察法病棟では、看護師がチームをコーディネートする重要な役割を担っていることも分かった。この面は参加者にとって、各自の臨床におけるケアにつなげていくことができる意味があったと考え、非常に有意義な研究会となったと考える。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

本年度は年間計画があるので、それに沿ってなるべく広く広報して多くの方に参加していただけるようにしたい。

また次年度に向けて、どのようなテーマで開催するのがいいか、参加者の方のニーズや地域に必要なことは何かを検討しながら、時には対象を絞ったりしながら進めていきたい。



第22回沖縄県精神看護研究会のご案内

司法精神科病棟の現状と課題 ー病棟管理者の立場からー

琉球病院 副看護部長
講師:西谷 博則さん

日時:平成25年7月20日(土) 13:00~15:00
参加費:無料
場所:名桜大学北部地域看護系医療人材育成
支援施設(看護棟) 講義室4

お問合せ・お申込先
名桜大学人間健康学部看護学科 精神看護学 担当:平上
E-mail: k.hirakami@meio-u.ac.jp
TEL: (0980)51-1281(直) FAX: (0980)51-1307(看護学科内代表)

★お申込み方法★ FAXかE-mailで。
お申込みの様式は自由です。お名前、ご連絡先、所属施設をお知らせ下さい。

主催:名桜大学人間健康学部看護学科 精神看護学
共催:名桜大学看護実践教育研究センター

第 23 回沖縄県精神看護研究会

申請者氏名（代表者） 鈴木 啓子		所属部門	人間健康学部看護学科 精神看護学領域		
企画名 第 23 回沖縄県精神看護研究会： 映画『夢どう宝』上映会					
企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。） 毎日の取り組みや工夫、行なってみたいことや夢、新しい情報や知見などについて、日ごろ看護を 実践されている皆さんと教育研究に携わっている皆さんと共有できる交流の場として、毎月開催して いる沖縄県精神看護研究会です。 このたびは沖縄県精神看護研究会初の映画上映会であり、名桜大学 4 年次学生が発起人となって実 現し、学生の研究会への参画機会にもなったり、会の可能性を広げることになっています。 映画上映後は監督の古謝さんと主演されたメンバーの 1 人伊礼さん、スタッフの方とのディスカッ ションも企画し、精神医療や精神障害をもちながら社会で生活する当事者の方への理解を深めたり、 地域の方とのつながりの場づくり、精神保健医療サービスとの連携、情報提供やディスカッションの 場の提供など、多くの目的をもつ取り組み企画です。					
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）					
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考	
鈴木啓子	人間健康学部 教授	精神看護学	研究会代表 企画案検討作成 全体司会	(当日は不在)	
伊礼優	准教授	精神看護学	企画書作成、		
平上久美子	講師	精神看護学	企画検討作成、準備・会場 設営・事務 etc.		
鬼頭和子	助手	精神看護学			
企画実施報告(参加人数等を明記)					
実施した日時：平成 25 年 8 月 17 日（土）11:50～15:10 *参加者：37 名 今回は、沖縄県精神看護研究会初の映画上映会でした。H24 年 8 月に新垣病院ダイナイトケアセンタ ーで結成された映画同好会で、今年 3 月末に短編映画が完成。4 月 7 日に東京で開催された『ラブスト ーリー映画祭』に出品、上映されました。夢をもち、それを叶えていくプロセスで笑顔になるような 映画です。監督も出演もダイナイトケアのメンバーさん中心で、スタッフの方がサポートして制作さ れたそうです。 監督の古謝さんと主演されたメンバーの 1 人伊礼さん、スタッフの方 2 名の計 4 名で来てくださ いました。映画上映後には、デイケアスタッフの知花さんの進行による、会場の参加者の方々も精神疾 患理解が深まるような古謝さんたちとのやりとりや会場との質疑応答、情報提供など、盛りだくさん のディスカッションをしていただきました。来てくださった方からはご家族のことを話くださったり 、それに対する古謝さんや伊礼さんたちの体験や会場の方への応援のエールなど、会場の人たちの 思いがあふれる会になり、多くの方から来てよかったとのコメントを頂きました。					

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

参加者は、様々な背景（一般の方、市役所相談員、大学院生、学部生、高校生と高校の教員の方、大学教員等）の方々であった。

当初の目的はほぼ満たせていただけてだけでなく、映画が非常にポジティブな現実を伝える、夢のあるものであったうえ、会場とのディスカッションが内容の濃いものであり、目的以上に参加者のかたそれぞれにとっての意味があるものであったことを感じた。

監督や主演のメンバーさんにとっても「これまでの上映会で一番良かった」と言っていただけ、手応えがあったことも来ていただいてよかったことである。今後の看護教育（精神看護学）における協働ももてそうであり、非常に有意義な研究会となったと考える。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

本年度は年間計画があるので、それに沿ってなるべく広く広報して多くの方に参加していただけるようにしたい。

また次年度に向けて、どのようなテーマで開催するのがいいか、参加者の方のニーズや地域に必要なことは何かを検討しながら、時には対象を絞ったりしながら進めていきたい。

このたびのような当事者の方々や臨地の方々との協同は非常に楽しく有意義であり、積極的に取り入れていきたい。

主催：名桜大学人間健康学部看護学科 精神看護学
共催：名桜大学看護実践教育研究センター

沖縄県精神看護研究会のご案内

映画「夢どっ宝」上映会

H24年8月に新垣病院テイナイトケアセンターで結成された映画同好会で、今年3月末に短編映画が完成。4月7日に東京で開催された「ラフストーリー映画祭」に出品、上映されました。夢をもち、それを叶えていくプロセスで笑顔になるような映画です。

このたびの上映会は、この話題をいち早く知った名桜大学4年次学生が発起人となって実現しました。

ぜひお誘いあわせの上、お越しください。

日時：平成25年8月17日(土)13:00～15:00

参加費：無料

場所：名桜大学北部地域看護系医療人材育成支援施設(看護棟) 講義室5

お問合せ・お申込先

名桜大学人間健康学部看護学科 精神看護学

担当：平上(k.hirakami@meio-u.ac.jp)、鬼頭(k.kito@meio-u.ac.jp)

TEL：(0980)51-1116, FAX：(0980)51-1307

*ともに看護学科内代表

★お申込み方法★ FAXかE-mailで。

お申込みの様式は自由です。お名前、ご連絡先、所属施設をお知らせ下さい。



第 24 回沖縄県精神看護研究会

申請者氏名（代表者） 鈴木 啓子		所属部門	人間健康学部看護学科 精神看護学領域	
企画名 第 24 回沖縄県精神看護研究会：シリーズ 看護師のメンタルヘルスの現状と対策 第 1 回				
<p>企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）</p> <p>毎日の取り組みや工夫、行なってみたいことや夢、新しい情報や知見などについて、日ごろ看護を 実践されている皆さんと教育研究に携わっている皆さんと共有できる交流の場として、毎月開催して いる沖縄県精神看護研究会です。</p> <p>今回は、「看護師のメンタルヘルスの現状と対策」がテーマでした。看護協会では、看護師の離職 にはメンタルヘルスの影響も少なくないと言われています。今回の講師には、平安病院・精神専門看 護師の山崎千鶴子先生をお招きして、専門看護師の立場から看護師のメンタルヘルスについて、情報 提供をして頂きました。当日は、臨床の看護師等や看護学科の学生とメンタルヘルスについて、話し 合わせ、看護師のメンタルヘルスの現状や課題を検討することが出来ました。</p>				
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）				
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
鈴木啓子	人間健康学部 教授	精神看護学	研究会代表 企画案検討作成	司会・進行
伊礼優	准教授	精神看護学	企画書作成	
平上久美子	講師	精神看護学	準備・会場設営・事務 etc.	
鬼頭和子	助手	精神看護学	準備・会場設営・事務 etc.	
企画実施報告(参加人数等を明記)				
<p>実施した日時：平成 25 年 9 月 21 日（土）13:00～15:30</p> <p>まず初めに、簡易的なうつ病尺度が紹介されて、参加者はこころの状態を把握した。次に働く人々 の 6 割が強いストレスを感じていることが説明され、看護師のストレス要因として、勤務構造・職務 内容・対人関係にあることが報告された。キャリア初期の看護師の病棟への適応過程や新人看護師に 起こるストレス反応についても報告されたが、今回は学生の参加者も多かったことから、就職するに あたり、意義ある内容であったと考える。</p> <p>職場におけるメンタルヘルスの基本的な考え方として、①セルフケア、②ラインによるケア、③ラ イン外によるケア、④外部資源によるケアがあり、興味深い内容であった。また、NIOSH の職業ストレ スモデルも丁寧に紹介され、ストレス反応が分かりやすく説明された。</p> <p>新人看護師の精神医学的な問題として、アルコール依存が多く含まれている事や入職 3 か月後にう つ病と診断できる者が 7 倍に増加することが報告され、参加者はそれぞれの思いを抱きつつ講義に参 加していた。</p>				

特に沖縄では、仕事のストレスをお酒で解決する傾向があること、回避型のストレスコーピングはうつ病を発症しやすいこと、依存症の問題がある場合はその問題に取り組む必要があるとの山崎先生の提言には重要な意義があると考えられた。

*参加者：15名

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

参加者は、様々な背景(精神科病院看護師、市役所相談員、大学院生、学部生、大学教員等)の方々であった。山崎先生より看護師のストレスについて講義して頂いた内容は、非常に貴重であり、今後の対処方法を検討できたと好評であった。

参加者の多くを占める学生にとっては、就職後のストレスやコーピングについて、理解を深める機会となっていた。その他、病院看護師からも非常に有意義であったとの発言もあり、今回のテーマや講義の内容は良かったと思われる。

今回の企画は、臨床で専門看護師として活躍される山崎先生から、実際の看護師のストレスの現状と課題が提供され、非常に有意義な研究会となったと考える。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

本年度は年間計画があるので、それに沿ってなるべく広く広報して多くの方に参加していただけるようにしたい。

また次年度に向けて、どのようなテーマで開催するのがいいか、参加者の方のニーズや地域に必要なことは何かを検討しながら、時には対象を絞ったりしながら進めていきたい。

特に今回は、シリーズで実施されるので、山崎先生や参加者の要望を募り、意義ある検討が行えるようにしたい。



主催：名桜大学人間健康学部看護学科 精神看護学
共催：名桜大学看護実践教育研究センター

第24回 沖縄県精神看護研究会

「看護師のメンタルヘルスの現状と対策 第1回」

平安病院 精神専門看護師
情報提供者：山崎千鶴子さん

日時：平成25年9月21日(土)13:00～15:00
参加費：200円
場所：名桜大学北部地域看護系医療人材育成
支援施設(看護棟) 講義室4

お問合せ・お申込先
名桜大学人間健康学部看護学科 精神看護学
担当：平上(k.hirakami@meio-u.ac.jp)、鬼頭(k.kito@meio-u.ac.jp)
TEL：(0980)51-1281(直) FAX：(0980)51-1307(看護学科内代表)

★お申込み方法★ FAXかE-mailで。
お申込みの際の様式は自由ですが、お名前、ご連絡先、所属施設をご記入、お知らせ下さい。

複製：2013年 名桜大学近くのGreen Tea Garden



第 25 回沖縄県精神看護研究会

申請者氏名（代表者） 鈴木 啓子		所属部門	人間健康学部看護学科 精神看護学領域	
企画名 第 25 回沖縄県精神看護研究会：シリーズ 看護師のメンタルヘルスの現状と対策 第 2 回				
<p>企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）</p> <p>毎日の取り組みや工夫、行なってみたいことや夢、新しい情報や知見などについて、日ごろ看護を 実践されている皆さんと教育研究に携わっている皆さんと共有できる交流の場として、毎月開催して いる沖縄県精神看護研究会です。</p> <p>今回は、沖縄中央病院の澤岬治美看護部長をお招き、病院で対応困難な患者の事例を検討しました。 他の患者に暴力を振るう対応が困難な患者に対して、看護師はどのような方向性を導くことが可能で あるのかが今回の目的でした。ゲストスピーカーには平安病院・精神専門看護師の山崎千鶴子先生も お招きして、様々な視点から対応策を検討しました。</p> <p>今回の研究会には、看護教員や臨床看護師等、看護学科の学生も参加していました。多数の参加者 で対応困難な患者に対する援助方法を検討すると共に、看護師のメンタルヘルスの側面についても検 討を加えました。</p>				
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）				
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
鈴木啓子 伊礼優 平上久美子 鬼頭和子	人間健康学部 教授 准教授 講師 助手	精神看護学 精神看護学 精神看護学 精神看護学	研究会代表 企画案検討作成 講師調整・接待、広報 企画書作成 企画案検討作成、物品・資料 準備、フライヤー作成、広報、 会場設営、受付、会計、事務 etc.	司会・進行 当日出張の為不在
企画実施報告（参加人数等を明記）				
<p>実施した日時：平成 25 年 10 月 19 日（土）13:00～15:00 *参加者：14 名</p> <p>初めに、沖縄中央病院の澤岬治美看護部長より、他の患者に暴力を振るう患者の事例が紹介された。 そして、現在実施されている看護の状況が報告されて、参加者は状況を把握した。</p> <p>その後、澤岬治美看護部長から、管理職が抱えている葛藤が報告され、参加者は積極的に事例を検 討して意見を述べた。ゲストスピーカーで参加している山崎千鶴子先生のご尽力もあり、検討会では、 様々な視点から事例を検討することが出来た。</p> <p>今回の事例検討会で、今後に向けて下記のことが提案された。</p> <p>① 患者は健康的な側面が十分に残っており、暴力にのみ着目するのではなく、患者の健康的側面に 働きかけることも大切である。</p> <p>② 患者は健在、閉鎖的な病棟で治療を受けているが、開放的な病棟で治療を提供することが望ましい。 隔離室から直接外部へ本人の好きな畑作業にスタッフ付き添いで出していくなどの可能性を検討 してみるとよい。</p>				

- ③ 患者と良好な関係にある看護師を中心に、今後の看護計画を立案していく。その時には看護師の負担も考慮して担当看護師は複数配置すること。
 - ④ 若手看護師は、暴力を振るう患者の援助に消極的になっている面が伺えたので、管理職を始め、先輩看護師が若手看護師をサポートすること。特に、暴力発生時の責任を若手看護師が負わない工夫も必要。
 - ⑤ 病棟というコミュニティの中で、守るべきことをスタッフも患者も共有し注意し合い安全で安心できるコミュニティを作るためのコミュニティミーティングを定期的に開催すること。
- 主として、上記の内容が導かれた。今回は、看護教員・専門看護師・看護部長・看護師長・看護師等・看護学生が、それぞれの立場や視点で様々な意見を提供したことから、内容のある検討会を展開することが出来た。テキストでは学べない内容も多々あり、実践的な意義ある研究会となった。

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

参加者は、様々な背景(精神科病院看護部長・看護師、市役所相談員、大学院生、学部生、大学教員等)の方々であった。澤岨部長より提供して頂いた事例は非常に貴重であり、看護実践を深く検討できてケアの向上に繋がったと考える。

今回の企画は、臨床から事例が提供され、様々な参加による視点から検討がなされていたので、非常に有意義であり、大学として役割が担えた研究会となったと考える。

参加者の多くからも、肯定的な感想が多く今回のテーマや講義の内容は良かったと思われる。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

本年度は年間計画があるので、それに沿ってなるべく広く広報して多くの方に参加していただけるようにしたい。

また次年度に向けて、どのようなテーマで開催するのがいいか、参加者の方のニーズや地域に必要なことは何かを検討しながら、時には対象を絞ったりしながら進めていきたい。

シリーズで実施される今後の研究会では、山崎先生や参加者の要望を募り、意義ある検討が行えるようにしたい。

主催：名桜大学看護実践教育研究センター

第25回 沖縄県精神看護研究会のお知らせ

「看護師のメンタルヘルスの現状と対策 -事例検討会-」

楽になるかも！ひろめくかも！

沖縄中央病院 看護部長

情報提供者：澤岨治美さん

日暮る利用者さんやそのご家族とともに悩みながら支援に取り組んでいるナースだって、悩み、ときにはしんどくなることだってあります。共有できる場でざっくばらんに語り合ってみませんか。

日・時：平成25年10月19日(土) 13:00~15:00

場 所：名桜大学北部地域看護系医療人材育成
支援施設(看護棟2階) 講義室4

お問合せ

名桜大学人間健康学部看護学科 精神看護学

担当：平上(k.hirakami@meio-u.ac.jp)、鬼頭(k.kito@meio-u.ac.jp)

TEL：(0980)51-1116 FAX：(0980)51-1307 (ともに看護学科内代表)

お申込先

名桜大学看護実践教育研究センター

担当：金城 ◆ Tel 0980-51-1118(水、土、日、祝祭日を除く) Fax 0980-51-1196

★お申込みの様式は自由です。お名前、ご連絡先、所属施設をお知らせ下さい。

背景：St. Patrick's Cathedral, Melbourne, 2013.



第 27 回沖縄県精神看護研究会

申請者氏名（代表者） 鈴木 啓子		所属部門	人間健康学部看護学科 精神看護学領域	
企画名 第 27 回沖縄県精神看護研究会：シリーズ 看護師のメンタルヘルスの現状と対策 第 3 回				
<p>企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）</p> <p>毎日の取り組みや工夫、行なってみたいことや夢、新しい情報や知見などについて、日ごろ看護を 実践されている皆さんと教育研究に携わっている皆さんと共有できる交流の場として、毎月開催して いる沖縄県精神看護研究会です。</p> <p>今回は、医療法人へいあん・平安病院で、精神専門看護師として活躍されている山崎千鶴子先生を お招きして、うつ病を患った看護師の復職支援の事例を検討しました。事例を通して、復職支援の在 り方を様々な視点から検討して、今後に活かすことが目的でした。</p> <p>今回の研究会には、富山大学大学院教授の比嘉勇人先生および山田助教、富山県認定看護師教育セ ンター主任教員で産業保健師の経験のある比嘉肖江先生も参加頂きました、その他にも沖縄県立看護 大学精神看護担当助手の大島先生、成人看護学の下地紀靖先生、臨床看護師等、大学院生や看護学科 の学生も参加していました。</p> <p>多数の参加者で復職支援の経過を検討すると共に、看護師のメンタルヘルスの側面についても検討 を加えました。</p>				
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）				
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
鈴木啓子	人間健康学部 教授	精神看護学	研究会代表 企画案検討作成 講師調整・接待、広報	司会・進行
伊礼優	准教授	精神看護学	企画書作成	
平上久美子	講師	精神看護学	企画案検討作成、物品・資料準 備、フライヤー作成、広報、会 場設営、受付、会計、事務 etc.	
鬼頭和子	助手	精神看護学		
企画実施報告（参加人数等を明記）				
<p>実施した日時：平成 25 年 12 月 21 日（土）13:00～16:00 *参加者：28 名</p> <p>初めに、精神専門看護師である山崎千鶴子先生より、安全衛生委員会の存在を知る大切さと、安全 衛生委員は業務とは別のラインにあることが説明された。始めに事例（40 代の抑うつ状態による欠勤 の男性看護師）の紹介がされ、その後参加者による事例を理解するための質疑応答があり、事例につ いての理解を深めつつ、検討を行っていった。参加者は、教員・院生・臨床の実務者は計 14 名で、他 は学部生であった。</p>				

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

参加者は、様々な背景(大学教員、産業保健師、看護師、市役所相談員、大学院生、学部生)の方々であった。山崎先生より提供して頂いた事例は非常に貴重であり、看護師のメンタルケアや組織運営を深く検討できて様々な視点で視野が広がったと考える。

今回の企画は、臨床から事例が提供され、多種多様な参加者による視点から検討がなされていたので、非常に有意義であり、大学として役割が担えた研究会となったと考える。

参加者の多くからも、鋭い意見や感想が述べられ今回のテーマや講義の内容は良かったと思われる。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

本年度は年間計画に沿ってなるべく広く広報して多くの方に参加していただけるようにしてきた。

また次年度に向けて、どのようなテーマで開催するのがいいか、参加者の方のニーズや地域に必要なことは何かを検討しながら、時には対象を絞ったりしながら進めていきたい。

シリーズで実施される今後の山崎先生研究会でも、参加者の要望を募り、意義ある検討が行えるようにしたい。

主催：名城大学看護実践教育研究センター

第27回沖縄県精神看護研究会

「看護師のメンタルヘルスの現状と対策 第3回」

平安病院 精神専門看護師
情報提供者：山崎千鶴子さん

山崎さんと話していると、なぜか
気持ちや、課題が軽くなる！

日ごろ利用者さんやそのご家族とともに考え支援に取り
組むナース、スタッフのよりよい環境やメンタルヘルス
を考える管理職、そして看護学生だって悩みしんどくな
ることはあります。共有できる場でざっくばらんに語り
合ったり、自分を再構成してみませんか。

日 時：平成25年12月21日(土) 13:00～15:00
場 所：名城大学北部地域看護系医療人材育成
支援施設(看護棟) 講義室4

参加費：無料

お問合せ
名城大学人間健康学部看護学科 精神看護学
担当：平上(k.hirakami@meio-u.ac.jp)、鬼頭(k.kito@meio-u.ac.jp)
TEL：(0980)51-1281(直) FAX：(0980)51-1307(看護学科内代表)

お申込先
名城大学看護実践教育研究センター
担当：金城 ◆ Tel 0980-51-1118(水、土、日、祝祭日を除く) Fax 0980-51-1136
★ お申込みの様式は自由ですが、お名前、ご連絡先、所属施設をお知らせ下さい。

写真：National Gallery of Victoria, Melbourne 2013



第 29 回沖縄県精神看護研究会

申請者氏名（代表者） 鈴木 啓子		所属部門	人間健康学部看護学科 精神看護学領域	
企画名 第 29 回沖縄県精神看護研究会：シリーズ 看護師のメンタルヘルスの現状と対策 第 4 回				
<p>企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）</p> <p>毎日の取り組みや工夫、行なってみたいことや夢、新しい情報や知見などについて、日ごろ看護を 実践されている皆さんと教育研究に携わっている皆さんと共有できる交流の場として、毎月開催して いる沖縄県精神看護研究会です。</p> <p>事例を通して、復職支援の在り方を様々な視点から検討して、今後に活かすことを目的としていま す。今回は、医療法人へいあん・平安病院で、精神専門看護師として活躍されている山崎千鶴子先生 をお招きして、うつ病とアルコール依存症を併発した相談員の復職支援の事例を検討しました。</p> <p>今回の研究会には、市役所産業看護師、病棟看護師、基礎看護学の大城凌子先生、大学院生や看護 学科の学生も参加していました。多数かつ経験の違う参加者で、医療職者の復職支援の方法について、 多種多様な方向からの振り返りにより、今後のメンタルヘルスの対策の示唆を得る事が可能です。</p>				
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）				
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
鈴木啓子 伊礼優 平上久美子 鬼頭和子	人間健康学部 教授 准教授 講師 助手	精神看護学 精神看護学 精神看護学 精神看護学	研究会代表 企画案検討作成 講師調整・接待、広報 企画書作成 企画案検討作成、物品・資料準 備、フライヤー作成、広報、会 場設営、受付、会計、事務 etc.	司会・進行
企画実施報告（参加人数等を明記）				
<p>実施した日時：平成 26 年 2 月 22 日（土）13:00～15:30</p> <p>初めに、精神専門看護師である山崎千鶴子先生より、ケースの病気の経過や、職場における状況、 家族状況などの概要が説明された。事例（うつ病とアルコール依存症を併発した 40 代男性相談員）の 紹介がされ、その後、参加者による事例を理解するための質疑応答があり、事例についての理解を深 めて検討を行っていった。参加者は、教員・院生・臨床の実務者は計 14 名で、他は学部生であった。</p> <p>*参加者：12 名</p>				

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

参加者は、様々な背景(大学教員、市役所産業看護師、臨床看護師、大学院生、学部生)の方々であった。山崎先生より提供して頂いた事例は毎回貴重であるが、今回の事例は、うつ病とアルコール依存症を併発した複雑なケースであった。複雑ながらも確認作業を行いながら、支援方法の分析を行いことにより、参加者のみならず、事例提供者も、今後のメンタルヘルスの支援方法に示唆が得られたと考える。特にアルコール依存症に関しては、啓発活動が十分でないため敬遠されがちな病である。

今回の事例により、うつ病とアルコール依存症は併発することもあるが、適切な支援方法によって、職場復帰することが可能であることを学んだ。成功の背景には、精神専門看護師とケースの信頼関係、産業医と主治医の活用の仕方等が挙げられた。

今回の企画は、臨床から事例が提供され、多種多様な参加者による視点から検討がなされていたので、非常に有意義であり、大学として役割が担えた研究会となったと考える。特に、市役所産業看護師もあり、今後の研究会の発展にも繋がると考えられた。

参加者の多くから、多様な意見や感想が述べられ、今回のテーマや講義内容は良かったと思われる。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

本年度は年間計画に沿ってなるべく広く広報して多くの方に参加していただけるようにしてきた。

次年度に向けて、テーマをどのような方法で開催するのがいいか、参加者の方のニーズや地域に必要なことは何かを検討しながら進めていきたい。

シリーズで実施される今後の山崎先生の研究会でも、参加者の要望を募り、意義ある検討が行えるようにしたい。

主催：名桜大学看護実践教育研究センター

第28回沖縄県精神看護研究会

「精神科病棟の高齢化と身体合併症」

琉球病院 病棟師長
提供者：吉岡 美智子さん

長期入院している患者さんたちの高齢化や、治療管理の必要な身体合併症をもつ患者さんの看護などは、現在、精神科病棟の抱える大きな課題であり、早急な対策が急がれるものです。今回は癌を併発した統合失調症患者の看護について皆さまと検討したいと考えております。現場で起こっている状況なども交えながら、気軽に話し合えるような場にしたいと思っております。

日時：平成26年1月25日(土)13:00～15:00
場所：名桜大学北部地域看護系医療人材育成支援施設(看護棟) 講義室4
参加費：無料

お問合せ
名桜大学人間健康学部看護学科 精神看護学
担当：平上(k.hirakami@meio-u.ac.jp)、鬼頭(k.kito@meio-u.ac.jp)
TEL：(0980)51-1281(直) FAX：(0980)51-1307(看護学科内代表)

お申込先
名桜大学看護実践教育研究センター
担当：金城 ◆ Tel 0980-51-1118(水、土、日、祝祭日を除く) Fax 0980-51-1136
★お申込みの様式は自由ですが、お名前、ご連絡先、所属施設をお知らせ下さい。

f 名桜大学人間健康学部看護学科 精神看護学 | <http://www.facebook.com/meio.kokoro>

主催：名桜大学看護実践教育研究センター

第29回沖縄県精神看護研究会

「看護師のメンタルヘルスの現状と対策 第4回」

平安病院 精神専門看護師
情報提供者：山崎千鶴子さん

日ごろ心にある気がかりなことも話してみませんか♪

日ごろ利用者さんやそのご家族とともに考え支援に取り組むナース、スタッフのよりよい環境やメンタルヘルスを考える管理職、そして看護学生だって悩みしんどくなることはあります。事例を通して自分やスタッフ仲間のことを考え、再構成してみませんか。

日時：平成26年2月22日(土)13:00～15:00
場所：名桜大学北部地域看護系医療人材育成支援施設(看護棟) 講義室4
参加費：無料

お問合せ
名桜大学人間健康学部看護学科 精神看護学
担当：平上(k.hirakami@meio-u.ac.jp)、鬼頭(k.kito@meio-u.ac.jp)
TEL：(0980)51-1281(直) FAX：(0980)51-1307(看護学科内代表)

お申込先
名桜大学看護実践教育研究センター
担当：金城 ◆ Tel 0980-51-1118(水、土、日、祝祭日を除く) Fax 0980-51-1136
★お申込みの様式は自由ですが、お名前、ご連絡先、所属施設をお知らせ下さい。

f 名桜大学人間健康学部看護学科 精神看護学 | <http://www.facebook.com/meio.kokoro>

第 30 回沖縄県精神看護研究会

申請者氏名（代表者） 鈴木 啓子		所属部門	人間健康学部看護学科 精神看護学領域		
企画名 第 30 回沖縄県精神看護研究会： 精神科看護師のキャリアディベロップメントー「あなたは職業人生をどう考えますか？」					
企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。） 毎日の取り組みや工夫、行なってみたいことや夢、新しい情報や知見などについて、日ごろ看護を 実践されている皆さんと教育研究に携わっている皆さんで共有できる交流の場として、毎月開催して いる沖縄県精神看護研究会です。 今回の企画は、精神科病院で働く中堅看護師を講師に招き、看護学生等とのディスカッションを通 して、キャリア向上の示唆を得ることを目的としています。講師は、東京の駒木野病院の宮崎弘光看 護部長と看護師の服部克彦さん、高柳圭代さんをお招きして、現在どのようにしてキャリアアップを捉 えているかを講演頂き、学生の疑問や質問に応じながら、キャリアの向上について検討しました。 今回の研究会には、クリニック看護部長、病棟看護師長、大学院生や看護学科の学生も参加してい ました。実際に精神科病院で勤務する中堅看護師からの助言は、学生にとってよい刺激となるように 企画しています。その他の参加者にも、キャリアについて振り返る機会が出来るようにディスカッシ ョン形式を用いました。					
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）					
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考	
鈴木啓子 伊礼優 平上久美子 鬼頭和子	人間健康学部 教授 准教授 講師 助手	精神看護学 精神看護学 精神看護学 精神看護学	研究会代表 企画案検討作成 講師調整・接待、広報 企画書作成 企画案検討作成、物品・資料準 備、フライヤー作成、広報、会 場設営、受付、会計、事務 etc.	司会・進行	
企画実施報告(参加人数等を明記)					
実施した日時：平成 26 年 3 月 22 日（土）13:00～16:00 初めに、宮崎弘光看護部長より、病院と講師の紹介がなされた。その後は、服部看護師と高柳看護 師より、学生時代から現在に至るまでの経緯やその時の心境等が語られた。 学生からは積極的に参加者に質疑があり、キャリア像のイメージを作り上げている様子が伺えた。 特に日々の振り返りの重要性や、精神科に入職することに対する不安が軽減したこと効果は大きかつ た。参加者は、教員 4 名（1 名は沖縄県立看護大学）・看護部長 1 名・看護師長 1 名・院生 1 名・学生 13 名で、総計 19 名が参加していた。					
*参加者：19 名					

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

今回の企画の目的から、参加者の多くは学生であった。その他にも、様々な背景(大学教員、クリニック看護部長、臨床看護師長、大学院生、学部生)の方々が参加しており、それぞれの視点からキャリアについて考えることができた。看護師の服部さんや高柳さんから提供して頂いた助言や経験談は貴重であり、学生達は自らのキャリア像がイメージできる研究会であったと考える。精神科に就職することに不安を抱いていた学生も存在したが、中堅看護師の経験談を聞いて安心した様子であった。

今回の企画は、精神科病院で実際に勤務する中堅看護師の情報提供であり、多種多様な参加者からの意見が述べられて非常に有意義であり、大学として役割が担えた研究会となったと考える。特に、参加した学生にとっては、今後の成長に繋がると考えられた。

参加者の多くから、多様な意見や感想が述べられ、今回のテーマや講義内容は良かったと思われる。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

本年度は年間計画に沿ってなるべく広く広報して多くの方に参加していただけるようにしてきた。

次年度は、参加者の方のニーズや地域に必要なことは何かを把握して、企画を進めている。精神看護に関わる多種多様な研究会が実施できるように、参加者の要望を募り、意義ある検討が行えるようにしたい。

主催：名桜大学看護実践教育研究センター

第30回沖縄県精神看護研究会

「精神科看護師のキャリアディベロップメント —あなたは職業人生をどう考えますか?—

ゲスト：精神科(東京 駒木野病院)で活躍している先輩ナース

日時：平成26年3月22日(土) 13:00~15:00

場所：名桜大学北部地域看護系医療人材育成支援施設

(看護棟)講義室4 *参加費：無料



精神科で働くってどんな感じ? やりがいや楽しさって? 困ったり悩むことはないのかな?先輩や仲間はどうなの? などなど、将来の看護や就職に活かしたい、精神科に興味・関心があるなど、動機はなんでもOK。お茶を飲みながら楽しく語り合える場です。気軽にご参加ください♪

お問合せ

名桜大学人間健康学部看護学科 精神看護学

担当：平上(k.hirakami@meio-u.ac.jp)、鬼頭(k.kito@meio-u.ac.jp)

TEL：(0980)51-1281(直) FAX：(0980)51-1307(看護学科内代表)

お申込先

名桜大学看護実践教育研究センター

担当：金城 ◆ Tel 0980-51-1118(水、土、日、祝祭日を除く) Fax 0980-51-1136

★お申込みの様式は自由ですが、お名前、ご連絡先、所属施設をお知らせ下さい。

f『名桜大学人間健康学部看護学科 精神看護学』<http://www.facebook.com/meio.kokoro>